



《編集・発行》

相模原市農業委員会
相模原市中央区中央2丁目11番15号
Tel 042-769-8292 (直通)

農業のうごき

10月22日に、杜のホールはしもとで「関東ブロック女性農業委員等研修会」が開催されました。

研修会は、女性農業委員等の交流、情報交換を目的として各県が持ち回りで年1回開催しており、今年度は本市の榎田農業委員が会長を務める「かながわ農業委員会女性協議会」が中心となり、関東7県から約140名の女性農業委員等が相模原に集まりました。

当日は、本市農業委員会の高橋会長が、自ら会長を務め運営する「相模原市湘野辺地区ふれあい農園の取り組み」を紹介したほか、女性農業者等から、「女性農業者支援事業の取り組みについて」や、「農業女子プロジェクトの活動について」の講演などがあり、女性農業者の活躍を更に広げるための情報共有の場となりました。

今後、女性の力が農業の発展に寄与していくことが期待されます。



関東ブロック女性農業委員等研修会

農業委員会大会

11月15日に、海老名市文化会館で、神奈川県農業委員会大会が開催されました。県内の農業委員・農地利用最適化推進委員が出席し、高橋会長が議長を務めた大会決議では、県に要望する事項として4議案が決議されました。

また、情勢報告では「関東ブロック女性農業委員等研修会」の結果を踏まえ、榎田協議会会長が女性農業委員・推進委員の積極的な登用、各自治体や地域における女性の活躍の場の推進について強く要望し、会場の委員は、今後取り組んでいくべき重要な課題であることを認識しました。

大会は、取組の強化と着実な実践を宣言し、「がんばろう三唱」で締めくくられました。

第1号議案	基本農政の確立・推進と農業委員会の体制整備に関する要望
第2号議案	農地の保全と有効利用対策に関する要望
第3号議案	担い手・経営対策に関する要望
第4号議案	農業委員会活動の強化に関する申し合わせ



2頁
新規就農者との意見交換
今回は、旧相模原市域で就農した5名の新規就農者と意見交換しました。

◀ 圃場で行われた意見交換



3頁
第54回農業まつり
地産地消を推進するためにアンケートを実施。協力いただいた方には農業委員会オリジナルエコバックをプレゼントしました！

農地利用最適化推進委員を募集します

農業委員会では、農地等の利用の最適化の推進などを職務とする農地利用最適化推進委員を募集します。

応募資格：農地等の利用の最適化（担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進）の推進に熱意と識見を有する者。（欠格事項については「募集案内」をご覧ください。）

主な業務：担当区域における農地のパトロールや農地のあっせん、新規就農者への支援等の現場活動、連絡会等への出席と現場活動の報告。

募集人数：21人
担当区域：右表のとおり
(概ね100haの農地に1人)
選考方法：選考委員会により書類審査等を行い、総会で決定します。

担当区域 (本庁管内)	人数	担当区域 (津久井管内)	人数
緑区 (橋本地区、大沢地区)	2	緑区 (城山地区)	2
中央区	3	緑区 (津久井地区)	5
南区	4	緑区 (相模湖地区)	2
計	9	緑区 (藤野地区)	3
		計	12

身分・報酬額・任期：

身分	相模原市非常勤特別職職員
報酬	月額 40,000円 (交通費含む・別途法定控除有り)
任期	委嘱日 (平成31年4月中旬) から平成34年3月31日まで

募集期間：平成31年2月1日(金)～2月28日(木)【必着】

申込方法：1 所定の「推薦申込書」(他薦用)又は「応募申込書」(自薦用)及び「暴力団員等に該当しないことの誓約書兼同意書」並びに「応募に関する同意書」に必要事項を記入、押印、顔写真を添付の上、次のとおり申し込みください。

申込先	申込方法	申込場所又は宛先
農業委員会事務局	①直接持参* ②郵送【必着】	①相模原市役所本館5階 ②宛先：相模原市農業委員会事務局 (下段記載)
同津久井事務所	直接持参*のみ	津久井総合事務所本館3階 (相模原市緑区中野633番地)

*直接持参する場合は、平日の午前8時30分から午後5時まで。

2 募集案内及び申込みに必要な書類は、農業委員会事務局・同津久井事務所、各行政資料コーナー・まちづくりセンター(橋本・本庁地域・大野南まちづくりセンターを除く)・出張所・公民館で配付*しています。また、市ホームページ(農業委員会のページ)からもダウンロードできます。
*配付時間は、平日の午前8時30分から午後5時まで(各公民館を除く)

- 注意事項：1** 農業委員との兼任は出来ません。
2 応募者については、次の事項について関係機関等へ確認をし、選考を行います。
(1) 相模原市暴力団排除条例第2条第4号に規定する暴力団員等であるか否か
(2) 農地法等農業に関する法令違反の有無
(3) 農業経営の状況等
3 申込書類は理由の如何を問わず返却しませんので、あらかじめご承知おきください。
4 推薦、応募及び面接等に係る経費は、全て各自の負担となります。
5 選考結果は、平成31年4月上旬までに、推薦者及び応募者に文書にてお知らせします。

申込関係書類の公表：選考にあたっての透明性及び公平性を確保するため、募集期間中(2月中旬)・募集期間終了後(3月上旬)の2回、応募者に関する情報を市ホームページに公表します(公表する情報については「募集案内」をご覧ください。)

【お問い合わせ・郵送での申込先】

相模原市農業委員会事務局
〒252-5277 相模原市中央区中央2丁目11番15号 Tel 042-769-8292 (直通)



農業委員会委員視察
平成30年11月1日
JAいせはら農産物直売所
「あふり〜な」比々多店
神奈川県
かながわ鳥獣被害対策支援センター

地産地消や鳥獣被害対策について、今後の活動の参考とするため、伊勢原市にある農協直売所「あふり〜な比々多店」と平塚市にある「かながわ鳥獣被害対策支援センター」を視察しました。

「あふり〜な」では、地域特性を生かした幅広い農産物の販売や果実の生産性の高さに着目し、販売体制や生産者の出荷状況について多くの質問がありました。

「かながわ鳥獣被害対策支援センター」では、鳥獣被害の現状や対策、地域と一体で行う被害対策の講習を受け、その後、大磯町で実践している現場と、ドローンを活用した取り組みを視察しました。

今回は、今後の販路の拡大や、「住民主体での取り組み」という視点での、被害状況に即した対策による遊休農地の発生防止・解消について、大きく前進が期待される1日となりました。



農業委員会では、昨年引き続き情報共有と連携を図ることを目的として、神奈川つくい農協（11月6日）及び相模原市農協（同14日）との意見交換会を開催しました。

はじめに、農業委員会からは市長に提出した「農地等の利用の最適化の推進に関する意見等」、農協からは「農協改革の取り組み状況」について報告があり、共通の課題である「農地利用集積円滑化事業」、「農地中間管理事業」、「有害鳥獣被害対策」等についての意見が交換されました。

意見交換では、農地利用最適化推進委員が行う農地利用状況調査等の情報を、農地利用集積円滑化事業や農協が行っている農地利用相談にも活用した方がいいという提案をはじめ、鳥獣被害対策や農地中間管理事業についても、農協だけでなく行政と一体となって取り組むことが必要であるとの発言や、特定生産緑地制度や、農協が行う共販体制作りについてなどの質問や意見が活発に交わられました。

農協、農業委員会それぞれの立場が抱える課題についての意見や質疑が多くあり、今後も情報共有を行いながら、一丸となって課題に取り組んでいくことになりました。

【第54回相模原市農業まつり 農畜産物共進会 受賞者一覧】

区分	共進会対象部門	受賞者名(敬称略)
立毛	施設トマトの部	小林 康史
	梨の部	三澤 勝重
	ぶどうの部	渋谷 汎
	露地ナスの部	小俣 武士
	ブルーベリー部の部	菊地原 恒市
生産物	施設トマトの部	小林 康史
	施設キュウリの部	小磯 直吉
	梨の部	春山 秀男
	ぶどうの部	渋谷 汎
	柿の部	柿澤 光一
	シクラメンの部	八木 雄一郎
	パンジーの部	八木 雄一郎
坪掘り	ブルーベリーの部	宮崎 則正
	やまといもの部	宮崎 則正
	やまといもの部	小山 信夫
	甘藷の部	田所 政信
畜産物	甘藷の部	三樹 茂
	乳牛の部(育成牛)	吉川 拓也
	乳牛の部(経産牛)	北島 隆
	種豚の部	安西 雄次
	鶏卵の部	株式会社コトブキ園

第54回 農業まつり

晴天に恵まれた11月11日、淵野辺公園中央広場で「第54回相模原市農業まつり」が開催され、今年もたくさんの方々が、地場農畜産物を使った料理やイベントを楽しみました。

農業委員会が設置したブースでは、活動紹介のほか、初の試みとなる市と連携した地産地消アンケートを実施して、協力いただいた200名を超える皆様に農業委員会オリジナルエコバックをプレゼントしました。

また、ステージでは、農畜産物共進会の表彰が行われ、多くの農業者の方の日頃の功績が称えられました。



農地再生モデル事業

農業のうごき第33号で紹介した、農業委員、農地利用最適化推進委員が緑区青根の荒廃した農地で行っていた農地再生モデル事業。土壌作りのために栽培していた津久井在来大豆も充分育ち、11月14日無事に収穫できました。再生された農地は、新たな担い手により活用される予定です。

津久井在来大豆を収穫



新規就農者との意見交換

2回目となる新規就農者との意見交換。

今回は、10月11日に旧相模原市域で活躍する、昨年、相模原野菜生産倶楽部を設立した4名（林秀宣さん、新鍋哲郎さん、向山耕生さん、和泉大樹さん）と、相模原市No.1のねぎ専門農家を目指す鈴木篤史さんの圃場を尋ねました。

参加した農業委員と農地利用最適化推進委員からは、就農する上での苦労や農作物の販路拡大、現在抱えている課題についての質問があり、5名の新規就農者からは、「ゆっくり休む暇がない」、「作業時間の短縮のために加工場が欲しい」、「就農当初、農地の借り方が分からなかった」、「就農してから収入が得られるまでに、時間がかかった」等の意見がありました。

今回の意見交換で、「農協や行政が、販路拡大や販売形式についてサポートしていかなければならない」、「就農する方法や制度の周知を図るために、窓口を増やさなければならない」など、新規就農者が積極的に参入できる環境づくりが課題であることが確認できました。

